市内で観察できる動植物（盃山～唐松観音）

カワラサイコ
＜バラ科＞
　バラ科の多年草で、以前は各地の川原に普通に見られる植物でした。現在では河川改修や、川原の公園整備に伴い数が激減し、山形県内では馬見ヶ崎川の一部のこの辺りで確認されているだけの大変貴重な植物です。
（花期６月～９月）
（山形県版絶滅危惧Ⅱ類）

アベマキ
＜ブナ科＞
　ブナ科の落葉高木で山陽地方が分布の中心の植物で、山形市周辺に隔離分布している本来は珍しい植物です。大きなドングリをつけ、シジミチョウ科のクロミドリシジミの食樹で、盃山でもクロミドリシジミが発生します。
（花期５月）

エノキ
＜ニレ科＞
　元々は山形には自生していなかった植物で、江戸時代頃植栽されたものが野生化したとされています。実は柿色になります。国の蝶、国蝶に指定されているオオムラサキ（タテハチョウ科）の食樹とされています。
（花期５月　果期９月～１０月）

エゾエノキ
＜ニレ科＞
　エノキとよく似ていますが、実が黒くなり果柄が長い点で区別が付きます。エノキと違い、古くから自生していたものと考えられています。エゾエノキもエノキ同様、国蝶オオムラサキの食樹となります。
（花期５月　果期９月～１０月）

カワラドクサ
＜トクサ科＞
　別名イヌドクサとも言われる、シダ類トクサ科の植物で、河川改修などにより激減しています。カワラサイコ同様この地域の馬見ヶ崎川河川敷内で自生が確認されています。県ランク絶滅危惧Ⅱ類の貴重な植物です。
（花期６月）
（山形県版絶滅危惧Ⅱ類）

「山形の自然」より

クロミドリシジミ
＜シジミチョウ科＞
　成虫は６月下旬頃より姿を現し、メスは産卵のために１０月頃まで生存します。全国で唯一、幼虫がアベマキだけを食べている産地として貴重な存在でしたが、人為的に別の食樹のクヌギが植えられたため、その価値を失ってしまいました。
（出現時期６月下旬～１０月下旬）

「山形の自然」より

オオムラサキ
＜タテハチョウ科＞
　日本の国蝶に指定されていて、タテハチョウ科の仲間では日本最大の種です。オスは紫色に輝きますが、メスは茶色で輝きません。花には集まらず、樹液に好んで集まります。幼虫はエノキ、エゾエノキを食べ、幼虫で越冬します。
（出現時期７月上旬～８月下旬）

コオニヤンマ
＜サナエトンボ科＞
　一見オニヤンマのように見えますが、頭が小さく、実はサナエトンボの仲間です。最近河川の水質が良くなったため個体数が増えています。７月になると馬見ヶ崎川沿いで多くの個体を見ることができます。
（出現時期７月）

ハグロトンボ
＜カワトンボ科＞
　カワトンボの仲間で、ハネが真っ黒なのですぐに区別ができます。独特なハネの開閉行動はユーモラスで見ていて飽きません。最近は全県下で増えている種類で、馬見ヶ崎川沿いでは７月頃から多くの個体が見られます。。
（出現時期７月）

「山形の自然」より

アブラハヤ
＜コイ科＞
　馬見ヶ崎川で最もよくみられる代表的な魚です。体表の粘膜が多く、触るとヌルヌルするので、油を塗ったハヤということから、アブラハヤという名がついたと言われています。食べると苦いのでニガザッコとも呼ばれます。

「山形の自然」より

カモシカ
＜ウシ科＞
　里山から高山までの森林で普通に見られ、多くは１～２頭で生活しています。食べ物は植物だけで、樹木の葉が主な栄養源ですが、農作物や果実などを食害することもあります。国の天然記念物で、山形県の県獣です。

「山形の自然」より

ニホンザル
＜オナガザル科＞
　普通は群れで目撃されることが多く、まれに１、２頭の離れザルを見ることもあります。山形市では奥羽山系の低山帯の森林が群れの主な遊動域ですが、しばしば農耕地にも出没して農作物に被害を与えることがあります。

「山形の自然」より

ハクビシン
＜ジャコウネコ科＞
　一見タヌキやイタチに似ていますがジャコウネコ科の動物で、外来種とみられています。近年内陸盆地の低山帯や集落周辺で分布域を広げ個体数を増やして定着しています。畑作物や果実類を食害することがあります。

「山形の自然」より

トノサマガエル
＜アカガエル科＞
　水田地帯を代表するカエルで、山形市周辺の水田、用水路、池や沼、湿地などに生息しています。一時期、農薬の使用によって数が激減しましたが、近年、次第に数が戻りつつあります。背面は平滑で、黒色斑紋と緑～褐色が特徴です。

「山形の自然」より

カイツブリ
＜カイツブリ科＞
　各地の湖沼で繁殖し、カイツブリ類で最も小さな鳥で、黄色い目が目立ちます。「ケレレレレ」と大きな声で鳴き、「ピッピッ」と小さな声も出します。盛んに水に潜って、小魚や水生昆虫を捕まえて食べ、浮き巣を作ります。
（留鳥・漂鳥）

「山形の自然」より

アオサギ
＜サギ科＞
　巣は大木の樹上に作り、日本のサギ類では最も大きく、河川、湖沼、ダムなどに生息します。体の上面は灰色で、下面は白っぽく、水辺に待ち伏せして魚などの獲物を捕らえます。「グワァー」と濁った声で鳴きます。
（留鳥）

写真提供:簗川堅

チョウゲンボウ
＜ハヤブサ科＞
　翼は細長く、先が尖っていて尾も長く、翼を素早く羽ばたかせて上空でホバリングし、地上の昆虫類やネズミ類などの小動物を探して急降下して獲物を捕らえます。海岸や山地の断崖、高い建築物、樹洞などで繁殖します。
（留鳥・漂鳥）